

令和4年度第3回伊丹市スポーツ推進審議会 議事録

日時：令和4年10月25日（火）10時～12時

場所：伊丹市立総合教育センター2階講座室

出席者：6名 傍聴者：1名

○会長挨拶

○会議録署名人の指名

○議 事

議題「伊丹市スポーツ推進計画」の中間見直し案の検討について

（事務局）第2章～第7章の中間見直し案について、資料12に沿って説明

（質疑応答）

（会長）

質疑については、各章ごとに進めていきたい。その中で事務局から特にご意見を頂きたいところもあるようなので、随時言ってください。

それでは、第2章について、何かご質問、ご意見等ありませんか。ここ4、5年の状況を見て内容を修正しているが、いかがですか。

第2章については、特にないようなので、ここはよろしいか。

（各委員） 異議なし

（会長）

では、次の第3章にうつります。説明をお願いします。

（事務局） 資料12の第3章の修正点を説明

第3章については、当局内部から政策目標を簡潔にして、よりわかりやすい表現のほうがいいのではないかという意見があり、内容を修正し検討案としている。各委員のご意見をお願いしたい。

（会長）

第3章は、特に政策目標と重点施策の表現を、できるだけ簡単にまとめたとのことだが、いかがですか。

（A委員）

非常に読みやすくなった。簡略化され、実際に市民の方に読んで頂くのでよいと思うが、「みるスポーツ」に「身近なバリアフリースポーツの環境の整備」という言葉が、入っていてどちらかと言えば、するという内容の色合いが強いかと思う。ここの意味合いとしては見ることで考えれば、バリアフリースポーツをプレーされている方を見るという視点のところである。例えば、そうしたスポーツの大会等を告知し、色々な方に関心を持ってもらい、結果として会場に足を運んで応援して頂き、バリアフリースポーツの認知度が上がることで、環境整備だけではなく、プレーをするところも着眼点を持ってもいいのではないか。

（会長）

身近なバリアフリースポーツの環境の整備のところですね。

（A委員）

はい。まさに身近でそういうスポーツができるという話なので、するほうに視点が寄っている感じがする。

(会長)

簡潔にして反対に表現がわかりにくくなっているということですね。ちょっとまた、表現を考えてもらえますか。

(事務局)

はい。

(副会長)

16 ページのするスポーツの推進のところで、スポーツクラブ 21 の充実を言っているのはよかったと思う。ただ、文言がつながっていないので、文中の「スポーツ実施者を増やす取組」のところを「実施者を増やすように取組み」とか、「増加を目指して取組み」という表現にしてはどうか。

次にささえるスポーツのところの連携・協働の推進であるが、地域連携という言葉を入れたほうが良いのではないかと思った。本文を読むと地域に限ったことではないが、部活動の地域移行のところでは、地域連携がキーワードになっているので検討して頂きたい。やはり、入れるのが難しいようなら、なしでも構わないが。

次に伊丹ならではのスポーツの推進のところで、DX の推進に取り組むとあるが、実際に何をやるのかということになる。書いたらやることになるので、少しあてがあって、やれることを書くならいいが、慎重に言葉を選んだほうがいいように思う。それ以外は非常にうまくまとめており、わかりやすくなっていると思う。

(会長)

私もどこまで具体的に出すのがいいのかと常に思い、文章を読んでいたが、答申なのであまり具体的に出すのも具合悪いし、そうかというあまり抽象的でもよくないし、そのバランスが非常に難しいと思う。今、ご指摘あったところをもう一度考えて頂き、もう少し具体的に出すほうがいいのかという気もするので、ご検討頂きたい。

(事務局)

先ほど A 委員からご意見を頂いた、みるスポーツの推進の「身近なバリアフリースポーツの環境の整備」のところだが、14 ページにある推進計画の体系のところの重点分野は、第 4 章以降の重点施策を取り入れていて、重点施策をそのまま文中に入れたスタイルとなっている。A 委員がご指摘された通り、そのタイトルがするスポーツのイメージを与えてしまうならば、タイトルの表現を変えるのも一つの方法かなとも考える。この構成自体がそのようになっているというご説明をさせて頂いた。

(事務局)

補足だが、「身近なバリアフリースポーツの環境の整備」の本文が 27 ページにあるが、この中身にするスポーツの視点も入っているものがあり、ここの位置づけで良いのか、あるいは、23 ページのするスポーツのほうで、障がい者がスポーツに親しめる環境づくりを図るとしてソフト事業が結構集まっているところに入れたほうがいいのか、または、タイトル自体を見直すほうがよいのかについて、再度ご意見を頂けたらと思う。

(A 委員)

今の話でだいぶわかってきた。確かにするスポーツのほうで本文を見ると障がい者のスポーツの実施とあるので、重なるなと思っていた。本文を見ると、バリアフリースポーツの環境となっているので、これはスポーツ観戦の環境、施設を訪れるとかの観点であると思う。多分、スポーツ環境という言葉自体がかなり広く、一般論的には、スポーツをする人の環境

と捉えられると思う。観戦という言葉が入ってくると非常にわかりやすいと思う。バリアフリースポーツ環境と言うと、する側のイメージになるので、観戦環境という言葉が正しいかどうかはわからないが、観戦にかかるとか、観戦に伴うという言葉で環境整備を行うというような表現になれば、問題はないかなと思う。

(会長)

よろしいか。

(事務局)

はい。

(会長)

それでは、第3章について他にありませんか。
では、次に第4章に入ります。説明をお願いします。

(事務局) 資料12の第4章を説明

(会長)

第4章するスポーツの推進につきまして、ご意見をお願いしたい。
少し質問だが、21ページの取組1の文中のポールウォーキングは、正式名であるのか、ノルディックウォーキングというのものもあるが、どちらの名称がいいのか。

(事務局)

ポールウォーキングとノルディックウォーキングは、歩き方が違うもので、両方ともポールを使うが、その扱い方が違う。ポールを前傾でついて歩くのがポールウォーキングで、高齢者により安定したウォーキングとされている。

(A委員)

資料によるとポールをつく位置が違うようで、ノルディックウォーキングは、歩いている足の後ろのほうについて、押し出すので運動量は上がるけれど、逆に高齢者で慣れていない方は、かえって疲れてしまう。ただ、ノルディックウォークは、きちんとした協会があり、広く捉えていたほうが良いということで、こうした資料があるのかなと私は理解している。

(事務局)

事務局でここを検討した時は、ポールを使ったウォーキングは、ノルディックウォーキングとポールウォーキングがあるという事やその違いについても今ご説明のあった内容で捉えた上で、このタイトルが高齢者を対象としているので、高齢者に向いているポールウォーキングを表記した。その後ろにつけている「等」は、必ずしもノルディックウォーキングを指しているのではなく、それ以外の高齢者ができる新しいスポーツという幅広い意味でつけたものである。そのあたりの表記が紛らわしいようならば、検討する。

(会長)

はい、わかりました。他にありませんか。

(副会長)

するスポーツのところだが、部活動の地域移行については、今、ささえるスポーツに入っているが、子どもたちがスポーツをするという意味では、するスポーツの側面もあるかなと思う。今から全部、するスポーツの章へ持ってくるのではなく、行政では、子どもという時は、幼児から高校生ぐらいまでを含んでいるが、中学生が入っているとすれば、例えば、部活動の地域移行に関しては、ささえるスポーツ何ページの事業とも連動し

ながら、事業を進めますと書いてあると、事業が連携して色々な側面を持って進めている事がわかると思う。

(会長)

そうですね。大事なことだと思う。この辺の表現を考えて頂いて、うまく文章を入れて頂ければと思う。

(事務局)

この資料の19ページのところに取組4として、丸々そういう表現にするほうが良いのか、後ろのささえるスポーツの章立てでも挙がっているので、取組2に入れ込む形が良いのか、構成をどのようにすればよろしいですか。

(副会長)

取組2の文中に入れ込んでよいが、ここは、トレーニングの話なので、取組4として書くか、あるいは、取組とつけないで書いてもよいと思う。

ここのところの書き方であると、外部指導者の充実ということなので、それでよい。子ども達のするスポーツの環境を守るという視点では、部活動の環境を守ることにも必要、その点については、部活動が子どもたちのスポーツ実施のためには大事だということをおさえておいていいと思う。

(会長)

他にありませんか。

(A委員)

具体的にどれぐらい反映させるかは、別の話になるが、重点施策3の「女性・高齢者・ファミリーの実施者を増やす」の取組1のところであるが、女性のスポーツ実施率が伸び悩んでいるのは、仕事や家事が忙しいということが理由の一つとして挙がっている。これは、女性に限らず男性も同じことが言えている。

その次に女性のしない理由が、面倒くさいからであった。確か男性よりも女性のほうが、面倒くさいからという理由が多かったように思う。女性が面倒くさいからしないということに前向きに取り組むには、健康については、男女共にあるので、女性に特化したもので考えると、例えば美容などの観点を少し入れてみるのもいいと思う。あとは、女性で、特に運動スポーツ経験がない方は、異性の指導者から指導されることに抵抗感を覚える方もいるのでできれば同性の指導者がいいということもある。また、フィットネス業界にいた時の経験的な話になるが、フィットネスのスタジオのプログラムの中に男性が少し混じっていることに違和感を覚える方がいた。同じ運動をする場に、服は着ているが、お互いにある意味で体を見られている状態なので、それに対して抵抗感を覚える方が、特に運動経験がない方にあるかなと思う。同性の指導者等、そのあたりの観点からのサポートや、先ほどの美容の話などの女性に特化したもので、面倒くさいという理由でスポーツを実施しない女性に向けて、もう少し積極的に踏みだせるような取組があれば、より女性を意識したという形になると思う。

先ほどの会長の話にあったように、あまり逆に具体的に書き過ぎるとするのも実施が難しくなるので、匙加減が必要だと思うが。

(会長)

今のところは、取組1の中に書くということですね。

(A委員)

そうです。取組1の中に、健康増進だけではなく、そのような取組や同性の指導者からの積極的な支援とか、そういう形の言葉が入ったほうがいいと思う。

(会長)

今のご意見を踏まえて、表現をまた考えてもらえますか。

(事務局)

はい。

(会長)

私からは、質問と意見と合わせたようなことであるが、20ページの取組2の「伊丹スポーツマップを開発し、充実する」というところだが、このスポーツマップについては、以前からそういうものを作らなくてはいけないとは、聞いていたが、なかなか具体的にはできていないのが現実で、まだ活用されていないと思う。

この内容をもう少し、具体的な表現にしてわかりやすくする方がいいのではないかなと思う。例えば、スポーツセンターから、瑞ヶ池、昆陽池、天神川等の川沿いの道路を利用して、ジョギングやウォーキングをしてもらうことがあり、以前にスポーツセンターでのロッカーの貸し出しをしたが、あまり活用されていなかった。同じように緑ヶ丘体育館でも、そういうことを実施した話もあったが委員の皆さんには知られず活用されていないことがあるので、何かそのあたりをもう少し、具体的な取組を示すほうが良いのではないかと思う。そのようなことを考えて頂いたらと思う。他にありますか。

また、私からで申し訳ないが、スポーツクラブ21の認知度が、非常に低い。60%近くの方が存在すらも知らないということで、私はそんなことがあるのかなと思うが、あまりにも認知度が低すぎるので、市民に知って頂くための具体的な方策、DXの活用等何か具体的なものを出していくという事は、どうなのですかね。

(事務局)

それは、この計画の中でということですか。

(会長)

そう、各クラブの努力ということも、もちろん大事であるが、市としてこういう方法でもっと広報に努めるとか、啓発するとかを出して行って、全市的にやる方がいいのではないかと思う。

(事務局)

前回、A委員からご提案のあった情報の一元化ということは、進めていきたいと思っており、具体的にここでは情報をわかりやすくという表現にしている。現在は、スポーツクラブ21については、各学校を通じて会員を募集したり、イベントの際にはPRをするなど考えられる範囲でやっているが、なかなか認知度を上げられていない。何らかの対策をしていかなければならないと思うが、具体的な方法がなかなかないのが現状で、今後、各スポーツクラブ21の方々やスポーツ推進委員の皆さんと具体的な案を考えていきたいと思う。

(A委員)

今、情報を検索したが、伊丹市のホームページに活動状況が一応全部、出てはくるが、印象として、文字ベースになっているため、少しわかりづらいというのが正直なところである。仮に関心を持ったとしてもどこに聞いたらいいのか、わかりづらく、情報があってもアクセスできないかなと思う。例えば、もう少しビジュアル的に工夫し、ゼロから各クラブにボランティアベースでやっている方に作成してもらうことは、難しいと思うので、写真や基本情報、PR程度を載せるある程度の枠組みを作り、各クラブで必要な情報を載せてもらう仕組みができたらいのではないかと思う。

次に、本文と話がずれるが、子どもさんがいるとスポーツクラブ21との関わりが生まれる機会があるかなと思う。伊丹市の中で、それぐらいの世代の方の入れ替わり、つまり、転出と転入がどれぐらいの割合であるのかなと思う。スポーツクラブ21ができた当初から

おられる方は、情報があるかもしれないが、昔よりアピールが少し下がっている中、クラブの情報に全く触れない方もいる。そういう方でも、何か目につく方法や転入時のごみの出し方等の情報と併せてアピールする方法もあるのかと思う。その辺の転出転入の状況からもわかるのではないかなと思う。

(会長)

はい。ありがとうございます。第4条について、他にありますか。それでは次に、第5章の方に入ります。

(事務局) 資料12の第5章を説明

(会長)

第5章みるスポーツの推進につきまして、ご意見をお願いしたい。

(B委員)

重点施策3の「身近なバリアフリースポーツ環境の整備」の取組であるが、本市の体育施設は、昭和40～50年代にかけて建設されたもので、修繕、改修を計画的に行うとし、改修ばかりが書かれている。やはり計画は、先をみてのものなので、市民の声を反映して、新しい体育館を建てるとか、少し展望を持った計画の書きぶりがないのですか。新市役所の建設や色々な施設が建つので、予算が厳しいことはわかるが、今後の展望として、大きな大会ができるような体育館の新設など、政策の一環として、書いていくことも必要ではないかと私は思う。

(会長)

施設の改修、更新をとのことだが、伊丹の現状のスポーツ施設は、改修して客席等を増やすなどということは、非常に難しい面があると思う。面積的な問題もそうですが施設そのものの造りからして、難しい面がある。もちろんそういうことも考えていかなければいけないが、やはり、広報活動のようなところに重点を置いて、見てもらえる人の意識を変えていくというか、そっちの方に重点を置かないとなかなか難しいと思う。施設の整備と市民全体に対してのみるスポーツの価値のPRのようなところの両面が必要ではないかと思う。そのあたりをうまく表現して入れてもらえたらと思う。

(B委員)

この計画の提案の中には、施設の新設ということがどこにも載っていないので、何か必要ではないかと思うし、どこかに入れてほしいなと思う。

(事務局)

みるスポーツの中に、スポーツ施設の改修、修繕という内容が載っているが、37ページの取組2の「地域のスポーツ施設の整備」のところにも載せている。

今、B委員は、みるだけではなく、するスポーツの観点からも施設整備が必要であると言われていると思う。スポーツセンターが築50年以上となり、老朽化が著しいということで、民間事業者からの意見を聞きながら、伊丹市全体のスポーツ施設のあり方について、今、検討中で建替、改修、補修と色々な角度で見ているところである。ただ、修繕をするだけでないということを含め、ここの文言については、そういうところを踏まえ、今、頂いたご意見に沿った表現にしていきたいと思う。

(事務局)

補足だが、この計画においては、スポーツ施設の施設整備を12ページの「伊丹市におけるスポーツ推進の課題」として、上から5つ目に「公共スポーツ施設の老朽化が顕著であり、中長期的な施設整備計画が求められている」と載せている。当初から課題としてある

が、前期4年間ではなかなか着手できず、後期計画として今後、進めてさせて頂くということで、第4章以降の本文にその取組を載せている。27ページのみるスポーツの施設整備は、みる側を限定したみるためのバリアフリーということで端的に絞らせて頂いた。するスポーツを含め、全体としての施設整備については、その主だったところとして、36～37ページに入れている。第7章の重点施策2「子どもや若者が楽しめるスポーツ環境の整備」の取組2に将来世代の新しいニーズを取り入れたスポーツ施設の整備として載せている。今回、ご意見を頂いた趣旨については、この部分での表現を検討してよろしいか。

(B委員)

はい、それでいいと思う。

(会長)

市のほうでも、今後、計画的に改修工事等をしていかななくてはいけないと考えているようである。みるスポーツの環境整備であるとか、新しく若者たちのスポーツ施設を造るとか、ただ単に改修と言う事ではなく、そのあたりの事を踏まえて改修計画をして頂きたいと思う。この辺のことについて、あちらこちらに書かれているので、関連づけてうまく表現して頂けたらと思う。

他に第5章について、どうですか。

それではないようなので、次に第6章、ささえるスポーツの推進に移ります。説明をお願いします。

(事務局) 資料12の第6章を説明

(会長)

はい。第6章ささえるスポーツの推進について、ご意見をお願いしたい。

私からですが、30ページの重点施策2のスポーツ「スポーツボランティアの育成と活用」であるが、伊丹市には、スポーツ協会の中に障害者スポーツ協会という組織がある。これは全国的に見ても珍しい形で、どちらか言うと今までは福祉関係の方で、障害者が入っている例が多いが、伊丹では10年前からスポーツ協会に入ってもらい、活動してもらっている。その中で、かなりボランティア的な活動されている方がいるが、なかなか組織化されていないのが現状でないかと思う。

新たにボランティアを発掘することも大事であるが、スポーツ協会と連携し、一度そのあたりを整理して、登録制も含め、ボランティアの組織化をしっかりとしていくことが大事ではないかと思う。そのようなことを踏まえながら、少し具体的に書いてもいいのではないかという気がする。

(A委員)

今の会長のお話と繋がると思うが、30ページの「スポーツボランティアの育成と活用」というところに、ボランティアに参加したい個人をつなぐコーディネート事業という言葉があるが、まさにボランティアの方を組織化していくという話に繋がっていくことになると思う。このコーディネート事業自体は、どこが行っているのか。事務局への質問になるが、ケースバイケースになっているのか。

(事務局)

市として、このようなスポーツボランティアのコーディネート事業ができていないのが現状としてある。窓口も特になく、単発で、例えば、神戸マラソンのボランティアについて何名か集めてほしい等の県の依頼に対応することはある。スポーツに特化したボランティアコーディネート事業は、特にない。福祉関係のボランティアは、窓口が社会福祉協議会にあるが。

(A委員)

専任で置くかは別だが、例えばスポーツ協会の中で見えてきて、先ほどの組織化や調整、仲介の動きが取れてくると、活動されている方や興味を示した方にとっても動きやすくなると思う。コーディネート事業に関して、どこまで具体的に書くかの話になるが、1と2の取組の中には、コーディネートという言葉が入っていない。現場レベルでのリーダーの存在については書かれていて、新しく入ってこられた方を取りまとめるような意味合いが入っているが、そもそもの入り口として、コーディネートする役割とかそういうことを言及されるほうが良いと思う。市が直接に難しいなら、現場でのつながりとしてスポーツ協会でもいいかなと思う。

(B委員)

障がい者の用具のことになるが、バドミントンをしに、車いすで来られた女性の方が、体育館では体育館専用の車いすが必要で、緑ヶ丘体育館は、その車いすが用意されていたが、スポーツセンターにはないとのことであった。スポーツ用の車いすを自分で持っている人が多いが、高価なものなので、各体育館でも貸出しができる障がい者専用のスポーツ用具の準備が必要かなと感じた。

(会長)

はい。

これから、中学校の部活動の地域移行が始まったら、指導者の確保が大変だと思うが、何か人を集める妙案はないですか。

(C委員)

今の段階では、現在の教員が、本業兼務という形で携わる形となり、現場の教員もやっても良いが半数以上おられたので、ここしばらくは、そこに頼るしかないかなと思っている。土曜日、日曜日だけの活動で、そういう方を探すことは難しい。やはり地域にあるクラブに自分から参加し、教えてもらうという形が考えられる。

そのためには、教育委員会の基本的な制度を変えていかなければならないと思う。神戸市は下校時間を統一して早めようという動きになっている。例えば、5時までで学校の部活動を全部終わりにして、あとはやりたい人は帰ってから地域に行って、活動するという形にすれば、教員の負担軽減にもなるし、そのあと指導したい時は、そこで指導できることになり、家庭等のある教員は帰るとか、そういう線引きみたいなものを決めないことには、ずるずるいきそうな気がして怖いと言う感じである。3年間を見通して平日の移行をやっているということだが、冬の時間帯ならば、5時下校でなかなか平日の4時から5時の1時間だけみてくれる人を探すのは難しいと思う。1時間だけ来てねと言われると、私でしたらちょっと勘弁してとなる。夏は学校の下校が6時までだが、平日は5時までとして、そのような体制整備をしていくことが必要であると思う。

(会長)

部活動の運営方法、あり方自体を考えていくということですね。それも大事ですね。人の確保も大事ですが。

(C委員)

なかなか外部指導者もおられないですね。

(会長)

教員で今関わってもよいという人が、50%という話ですが、やっぱり先生がある程度関わり不足しているところに、民間の力を借りるという形が、一番スムーズではないかなと思う。あまり地域移行、地域移行と先走ってやると長続きしないように思う。この答申とは関係ない話になりますがね。

(C委員)

学校教育課程の教育活動から部活動を離さないとなかなか難しい問題があり、地域性もあるし、小学校1校、中学校1校であれば、地域の中でも、そういうような動きもできるが、地域や規模等により考えていかなければならないところである。

(会長)

次ですが、みるスポーツのみる人は、サポーターというのですか、サポーターとボランティアというのは、ある意味、関係があるのかなという気がする。見てもらえるような人は、ボランティアにも関わってもらえる要素が多分にあるのかなと思う。その辺の関連においても、より多くの人を発掘していくような方法が何かないかなと思う。その辺のことも、具体的に取組の中で考える必要があるかなと思う。

ささえるポーツについて、他にありませんか。

それでは、いよいよ最後ですが、第7章について、説明をお願いします。

(事務局) 資料12の第7章を説明

(会長)

伊丹ならではのスポーツの推進について、ご意見ををお願いします。

(副会長)

DXでは、運動活動をデジタルで通信指導すると言うが、テレビカメラを使って部活動を指導するというのもあるので、今後の活用事例として紹介しておく。

(会長)

伊丹ならではのスポーツという事でのスポーツ種目というのは、ここに出ているなぎなたは代表と言えますね。それと、いたっボール、ローラースケートも伊丹ならではの入りまますよね。この3つくらいですかね。

(事務局)

はい、現状としてはそうです。

(会長)

次のページに挙がっている若者のニュースポーツで、伊丹ならではのものが作れないかなと思うが、ぜひ施設の改修の時に何かそういう目玉を作ってもらえたらと思っている。私が、前から冗談のようによく言っているのは、スカイパークにスケートボードの施設を作れば絶対にヒットすると。それだけではなく、スポーツクライミング施設でもいいし、何か新しいスポーツで伊丹ならではのものができないかなという思いがある。この中には入れにくいけど、ぜひ施策面で考えて頂ければと思う。

以前に飛行機が飛ばない時間帯を使って、周辺道路か中を使って、伊丹ならではのマラソンができないかを提案したことがある。調べてもらおうと緊急使用があるため、できないという返事をもらい、残念に思ったことがあった。飛行場を使って、マラソンをやったら面白いと思う。何かそういった新しいスポーツとか、このマラソン大会についても、実現可能なところで考えていきたいなと思っている。

他に第7章について、何かありませんか。

(A委員)

ローラースケート場は、スケートボードができないのですか。

(事務局)

はい、フロアがスケートボードの衝撃に耐えられる仕様にはなっていないので、ローラースケート場の管理者からは、駄目と言われている。

(A委員)

ローラースケートと一言でいっても、競争するスピードスケートでトラックを使用する形のものもあれば、スケートボードのように、今のオリンピックの種目になったような感じで色々な障害物を越えていくようなものもあると思うが、そういうものもないという事ですか。現状の施設を何も知らないのです。

(事務局)

はい、ウレタン仕様のスケート場ですので、そのような形でのローラースケートができるところは、今現状としてはありません。

(A委員)

ローラースケート場が、そもそも市町村レベルの施設として全国的にないのです、そういった意味で、伊丹ならではなるかなと思う。

今の活用状況等を促進するのであれば、先ほどの話の改修というお金の話になるが、前向きに考えた場合、そういう話になるかなと思う。あと先ほどのスカイパークは、空港寄りで市街地の外れの方になるのですね。スケートボードの活用でひとつネックになるのは、夜の活用で、もともと、そういう文化があるので、ダウンタウンの中とか、町や市街地で活用しているが、もし、市のはずれでの活用ができれば、住環境から離れており、通常考えなくてはいけない懸念材料が減ると言えると思う。

また、クライミングについては、最近、幼稚園や児童公園に作られたりしていますよね。本格的になると安全管理の点で考えないといけません。

(事務局)

ローラースケート場ですが、あまり大きくなく、真ん中は、陸上競技場のトラックの真ん中のところのような感じで、自由に前後左右自由に動けるところで、主に小さな子どもや初心者が練習している。周りのレーンはトラックとして、スピードを出して十分に走れるところがある。スケートボードは、材質の問題もあり、構造上の性質上、離れて飛んでいって危ないということもあり、特に小さな子ども等が、練習しており、伊丹市では面積的な問題もあり、改修したとしても両方をやることは、実際には難しいところがある。スケート競技については、ローラースケート競技とスケートボード競技を合わせて、県ではローラースポーツみたいな感じで、今後まとめた概念で進行していくような形になっている。それを受けて、36ページの重点施策2の取組1では、一応、環境整備について検討するというのを書かせてもらい、先ほどの全体的な総合整備計画の中で検討していくつもりである。

次に、取組3のスポーツアートを推進するということであるが、フォトコンテストの方は考えればちょっと何かやりようがあるのかなと思うが、スポーツファッションコンテスト等のスポーツアートの推進については、具体的にどのようなものがあるのかを教えて頂けたらと思う。また、他に施策や取組として、何かあるならご意見を頂戴できればと思う。

(会長)

スポーツの日のつどいの一行事としてやっても面白いと思う。

(A委員)

ファッションとかフォトなどでアートという言葉が出ているので、この内容自体でも取組としては、素晴らしいと思うが、おそらくスポーツの楽しみ方の幅を広げるという考え方だと思う。取組3のところにそういう言葉を使って、具体的に書かれている内容があればいいと思う。ファッションは、マラソン大会では、よくそういう部門を設けてエントリーする方

もいるし、フォトの方も、自分が撮られる場合と自分が撮る場合と両方あり、マラソンでは、走りながら撮っていることもある。撮っている時は、止まっているが。運動しながらの写真撮り、タイムというより、むしろ、その写真の方に重きを置くイベントもある。フォトひとつとっても、切り口が色々あると思う。

(B委員)

ファッションは、スポーツによって違うので、難しいかなと思うが、フォトは、いいと思う。年に1回やって、それぞれの激戦とか、汗だくの写真や苦しい顔、楽しい顔等色々なものがあって、その写真を展示することは、面白いし、いいと思う。

(会長)

では、また具体的に考えていきましょう。

(副会長)

計画については、計画して、実行して、どう評価するかのところまでできているが、あとは、実現できるかどうかということが最後に大事なところであると思う。絵に描いた餅だけ描いても仕方がないので、どう具体的にやれるかというところでどうまくつないでいければと思う。例えば、伊丹市の中に服飾専門学校みたいなのがあれば、そこにファッションの事をお願いできればいいのかなと思う。そういう団体が、イメージできればすごく面白い取組になると思う。高校の文化祭とかも面白いですね。食もいいですし、フォトコンテストならば、写真の団体もありそうですのでお願いすることもできると思う。具体的にそれを推進してくれる組織団体があれば、色々な取組ができると思う。

(会長)

はい、ありがとうございます。

(A委員)

ちなみに、うちの大学の話ですが、コロナで学生がなかなか活動できなかったもので、去年の卒業前の1月から2月頃に、まさに学生のフォトコンテストを実施した。多くは部活がらみであったが、学生生活や部活動を連想させるような写真を募集し、賞金を出し、大学の校舎内に飾っている。スポーツという切り口は、市民の方にも結構響いて、企画として非常に良いのではないかなと思う。

(会長)

はい、来年に向けて、具体的に考えていきましょう。ありがとうございます。

では、他のところも含めてないですか。

予定していた時間がきたので、次回の会議で、今回頂いた意見を反映し、まとめていきたいと思うので、事務局はよろしくお願いします。

では、全体を通して何かありませんか。

それでは、本日は、以上で終わりにしたいと思う。事務局の連絡等、お願いします。

(事務局)

はい、前回の審議会で副会長から、これまでの実績について、計画の中に載せたほうが見直しをする上で良いのではないかなという意見を頂き、事務局において検討中である。計画の中に入れることになれば、次回にお示しさせて頂きたいと思う。

次回の審議会について、先日電話連絡で調整させて頂いたが、11月14日月曜日の10時に開催させて頂きたい。正式な案内は、近日中にお送りする。今回は、計画案全体の最終確認と答申書の確認をお願いしたいと考えている。また、本日の会議で、伝えきれなかった部分や意見があれば、本日から1週間以内を目安に事務局へご連絡をお願いしたい。

(会長)

それでは、次回は、11月14日月曜日の10時からということで、最終会となります。計画案全体と答申文について議論していきたいと思うので、よろしくお願いします。本日は、どうもありがとうございました。

(閉会)

伊丹市審議会等の会議の公開に関する指針第5条第3項の規定により、ここに署名する。

令和4年 12月23日

会議録署名委員

会議録署名委員